

先生各位

No. 22-06  
2022年1月

## 新規受託項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。  
このたび下記の検査項目につきまして受託を開始することになりましたのでご案内申し上げます。  
今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。 謹白

## 記

- 新規受託開始日 2022年3月1日（火）受付分より
- 新規受託項目

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値
3587	ロイシンリッチ $\alpha$ 2 グリコプロテイン (LRG) 5C245-0000-023-062	血清 0.5	1	冷蔵 (28日)	3~5	276 (生I)	ラテックス 凝集免疫法	16.0未満 (カットオフ値) ( $\mu$ g/mL)

## &lt;備考&gt;

炎症性腸疾患の活動期の判定の補助における参考基準値は16.0 $\mu$ g/mLです。感染症、リウマチ等の炎症性疾患、一部の悪性腫瘍においてLRG値が上昇することがありますのでご注意ください。

## &lt;保険留意事項&gt;

血清を検体として、ロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテインを潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として測定する場合は3月に1回を限度として算定できる。ただし、医学的な必要性から、本検査を1月に1回行う場合には、その詳細な理由及び検査結果を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載する。潰瘍性大腸炎又はクローン病の病態把握を目的として、カルプロテクチン(糞便)又は「D313」大腸内視鏡検査を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定する。

<ロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテイン (LRG) >

**炎症性腸疾患における活動期の判定補助に有用な検査です。**

ロイシンリッチ $\alpha$ 2グリコプロテイン (Leucine-rich alpha 2 glycoprotein : LRG) は、ロイシンリッチリピートと呼ばれるドメインを8つ含む約50kDaの糖蛋白質で、炎症局所で産生される新規血清バイオマーカーです。

特に潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患 (Inflammatory bowel disease : IBD) においては、内視鏡検査による疾患活動性評価とLRG値が相関することから、侵襲性の低い検体検査で簡便に評価することが可能となります。

また、LRGはTNF $\alpha$ 、IL-22といったIL-6以外のサイトカインで引き起こされる炎症でも発現するため、CRPが正常範囲内の症例における活動性評価に有用です。臨床指標とCRP、LRGの組み合わせ測定では単独測定に比べ、活動期の病態検出感度が高くなることも報告されています。

IBDにおける活動期の判定補助やモニタリング、治療選択の一助としてご活用ください。